

試料・情報利用研究計画書(概要)

審査委員会 受付番号	2021-1023-1	利用形態	共同研究		
研究題目	東北地方に於ける鬱症状の記述的分析			研究期間	2022年2月～2023年12月
代表研究機関	東北メディカル・メガバンク機構		責任者 氏名・職	山本 雅之	機構長
分担研究機関	ヤンセンファーマ株式会社		責任者 氏名・職	Yang Cheng	Director, Head of Data Science Asia Pacific Center of Excellence, Translational Science
研究目的と意義	<p>大鬱病性障害(Major Depression Disorder; MDD)は、WHO によって、2008年に世界の疾病負荷の3番目の原因としてランク付けされ、2030年までに1番目にランク付けされると予想されています。日本人においても、生涯有病率は7.5%と公表されています。本研究では、ToMMoのゲノムコホートデータを用いて、日本の東北地方における鬱病症状を有する集団の人口統計、環境、ライフスタイルおよび遺伝的特徴を解明し、また、世界の集団と比較したアジア人集団におけるMDDのリスク因子を見つけることを目的としています。</p>				
研究計画概要	<p>地域住民コホート調査、三世代コホート調査、脳と心の健康調査の参加者から鬱病症状を有する集団の症状、精神状態、治療パターン、環境、ライフスタイルについて、全体における割合、および参加者の年齢、性別、地域を含む人口統計における分布を分析します。また、鬱病症状を有する集団のうち、自殺念慮および不眠症状を有するグループにおいても同様の分析を行います。さらに、ゲノムとの関連を網羅的に分析し、鬱病症状に関連する遺伝要因の探索も行います。</p>				
利用試料・情報	<p>対象: 地域住民、三世代コホート調査宮城県参加者 成人約90,000人 試料: なし 情報: 基本情報、地域(内陸部、沿岸部)、調査票情報、検体検査・特定健康診査・生理学的検査情報、ゲノム情報(全ゲノム、SNPアレイ)、メタボローム情報、認知・心理機能検査データ(調査票、個別検査情報)、カルテ・母子健康手帳転記情報、診療報酬明細書情報</p>				
期待される成果	MDDのリスク因子の解明が期待されます。				
倫理審査等の経過	2022年12月 東北メディカル・メガバンク機構倫理委員会承認(中央一括審査)				
倫理面、セキュリ ティー面の配慮	<p>ヒトを対象とする生命科学・医学系研究の倫理指針の他、別途締結する研究契約を遵守して研究を遂行します。高度なセキュリティーを担保したスーパーコンピュータを機構内に設置し、個人識別情報を管理しています。本研究において、共同研究者がアクセスする場合も、遠隔セキュリテールームの端末から、あらかじめ承認された者のみが解析を行います。</p> <p>解析結果は、論文、学会発表等で公表いたしますが、研究参加者にお返しすることはありません。この際、地域差別が生じないように地域を特定できる情報を含めない等、十分な配慮を行います。</p>				
その他特記事項	統合解析コンソーシアム運営等資金				
(事務局使用欄)	* 公開日 令和5年1月6日				